

参加学会：第12回ゲルマニウム、スズ、鉛に関する有機金属化合物および配位化合物に関する国際会議 (IOCCOC-GTL-12)

参加者： 野田明希 (修士課程1年、持田研究室)

開催期間と場所： 2007年7月9日～13日 アイルランド ゴールウェイ アイルランド国立大学

タイトル：「0価白金錯体と1,2-ジヒドロジシランの反応」(The Reaction of a Zerovalent Platinum Complex with 1,2-Dihydrodisilane)

7月の中旬、アイルランドのゴールウェイにあるアイルランド国立大学で行なわれた学会に参加した。日本の初秋を思わずゴールウェイに到着後、直ちに学会の登録のためゴシック様式の大学の主会場を訪れた。会場につき、受付をすませると、運よくウェルカムレセプションが始まり、参加できた。会場では学生がバグパイプを演奏し、おいしい食べ物に囲まれて、先生の紹介でいろいろな方と知り合う機会に恵まれた。中でもラトビア共和国の Lukevichi 先生はとても親日家で、日本の思い出やラトビア共和国を天皇陛下が訪問されたことなどにはなをさかせた。

学会には20数か国、アイルランドを中心に100名程度の参加者があった。日本からは、10名弱の参加があった。私は2日目にポスター発表をした。発表時間がかかりずれ、1時間半押しでスタートで始まった。時間に厳格な日本の学会では考えられない時間の曖昧さに戸惑いつつポスターの前に立っていると、隣のオーストリアの Uhlig 先生が「学会ははじめてなの？」と会話の開始。「そうですね、今ちょっと緊張しています。」と答えると、「私なんか何年も学会に参加しているのに毎回緊張するわ。」とのこと。この励ましに、張り詰めていた気持ちが一気にほぐれ、少し心強くなった。また、会場にいる全員が片手にワインやジュースを持ち、酒の肴にポスターを見るというちょっとしたパーティスタイルだったのでさらに緊張がほぐれ、自由に振舞うことができた。

ポスター発表での内容は、有機ケイ素工業の主な化学工程に使われている、白金錯体触媒存在下、ケイ素-水素結合が不飽和結合に挿入する反応-ヒドロシリル化-における触媒サイクル中の中間体を明確にすることを目的とした研究の結果について報告した。この研究は大学4年から博士前期課程1年で行なった成果である。発表に興味をもってくれた多くの人との議論から自分の実験での見落としとしていた部分を指摘されたり、また数々の有益なアドバイスをされ、これから更に実験・研究の意欲が湧いた。非常に得がたい経験であった。質問の途切れた時間を利用して他の方々のポスターも見、質問を行なった。我々の研究室との関連から米国 Lehn 教授の有機ゲルマニウム化合物のレーザー閃光分解の発表には興味があり、光照射により生成した不安定化学種の生成機構について質問を試みた。一般的に、発表者の内容はもちろんデザインもとても斬新で今後のポスター作成の参考にしようと思った。また、次回からは失敗を恐れず、もっと積極的にセッションやエキスカッションなどにも参加して色々な方といっぱいおしゃべりしつつ色々学んでいけたらな、と思った。

学会の合間には、大学の横を鮭が泳ぐきれいな川岸の探索、ケネディーのステンドグラスがある立派な教会の見学、数え切れないほどのアイリッシュパブの並ぶ横丁に入り、小さいキルト屋さんやパン屋さんなどがある小さい街ながらも楽しんだ。また、ギネスビールの生まれた地で飲むビールの味は格別だった。